

AISIN REPORT

2012

クルマの今とこれから

世界中にクルマに乗る「うれしさ」を届ける

トップメッセージ

新たな経営ビジョンのもと、持続的な成長をめざします

New Products 2012

新アイドリングストップ協調ブレーキ制御モジュレーター
家庭用固体酸化物形燃料電池コージェネレーションシステム

新興国ニーズに応える

中国に根付いた 企業グループになる



AISIN

One Team, Best Future

新たな経営ビジョンのもと、 持続的な成長をめざします

グループの絆で試練を乗り越える

2011年度は試練の年であり、教訓を得た年でもありました。タイの洪水によって現地のグループ会社が浸水被害にあい、一時的に操業を停止しました。幸いにも人的被害や建物に損傷はなく、日本や中国のグループ会社による代替生産で苦境を乗り切ることができました。この経験によって、グループとしての一体感や絆を一層強めることができたと考えています。

今後、災害などのリスクに迅速に対応できるサプライチェーンのあり方やBCP(事業継続計画)の見直しなどについて、これまで以上にグループを挙げて補充しあえるような備えをしていきます。

新興国市場でスピーディーに事業を拡大

欧州金融不安の広がりや円高の長期化などの懸念材料もありますが、世界全体としては中国やインドをはじめとする新興国が牽引し、市場は拡大基調が続くと考えられます。

アイシンにおいても、今後いかに新興国市場で事業を拡大できるかが成長の鍵であると考えています。そのためには、現地メーカーをはじめとする世界中のメーカーとの取引を拡大していかなければなりません。そこで2011年度からは、受注の見込みが立ってから

拠点設置を行うような従来のやり方ではない、スピーディーな拠点展開を進めています。この1年に新設したインドの各拠点は、インド市場に進出した各国のメーカーや現地メーカーとの取引を視野に入れ、先手を打って設立した会社です。さらに中国においては、生産拠点を拡充したほか、現地ニーズへの対応と開発段階での技術提案を実現するための開発拠点を新たに設立しました。競争が激化する環境対応車向け製品の開発についても、グループの力を結集し、総力を挙げて立ち向かっていく所存です。

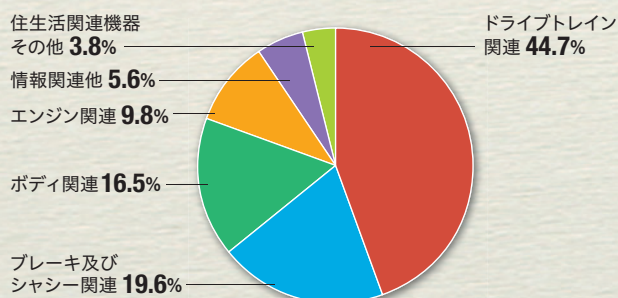
めざす姿は 「かけがえのないグローバルパートナー」

こうした局面において必要なことは、アイシンが「どこをめざすべきか」「どのように成長を遂げるのか」という新たな道筋を描き、その決意を世界中の人々に示すことに他ならないと考えます。

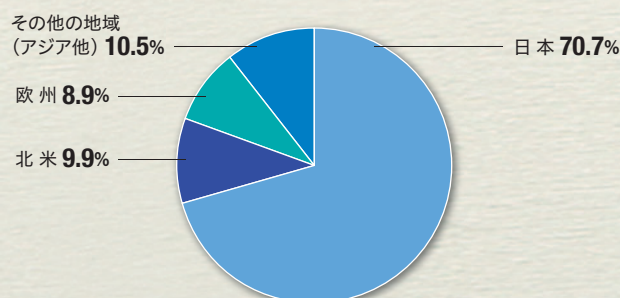
2011年度には、こうした認識に基づいて半年間にわたりグループで議論を重ね、その集大成として「AISIN Group Vision 2020」を策定しました。世界中のお客様や取引先、地域社会、株主、社員など、関わりのあるすべての人々から「かけがえのないグローバルパートナー」と呼ばれる企業——これが、このビジョン

2011年度売上高 2兆3,041億円

製品分野別構成比



地域別構成比



に掲げるアイシンの「めざす姿」です。常に「世界中の人々の豊かな生活にいかに関与できるか」を第一に考え、それを真摯に実現していくことによって、世界の多くの人から「かけがえのない存在」と認めていただくことが、持続的な成長を実現するための唯一の道であると確信しております。

持続可能社会への貢献

自動車は、新興国を中心として世界中でますますその必要性が高まっています。アイシンでは、自動車の環境性能と安全性能の向上に寄与する多彩な製品を提供し、クルマ社会の持続的な発展に貢献していきたいと考えております。

また、東日本大震災に端を発する電力不足などを背景として、エネルギー・環境問題の解決に貢献する省エネルギー製品・分散型エネルギーシステムに対するニーズが高まっています。アイシンでは、家庭用コージェネレーションシステムなどの「省エネルギー

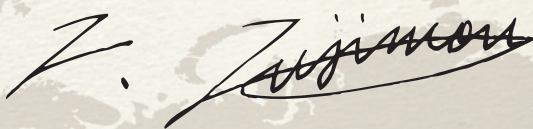
で安全・快適な暮らし」を実現する商品を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。さらに、事業活動にともなう環境負荷の低減や人材育成、社会貢献活動なども積極的に取り組んでまいります。

これからもアイシンは、世界20ヵ国、170社で働く7万8,000人の仲間とともに、世界中のお客様や取引先、地域社会、株主、従業員など関わりあるすべての皆様から信頼される企業グループであり続けたいと思います。ステークホルダーの皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2012年7月

アイシン精機株式会社
取締役社長

藤森 文雄



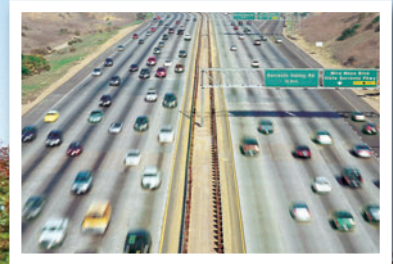
Now and Future 世界中にクルマ



急速な経済成長を遂げたインドや中国などの新興国を中心に、世界全体の自動車市場は今後も拡大基調が続くと予想されています。こうした中で、地球温暖化防止の観点からハイブリッド車や電気自動車に期待が寄せられています。

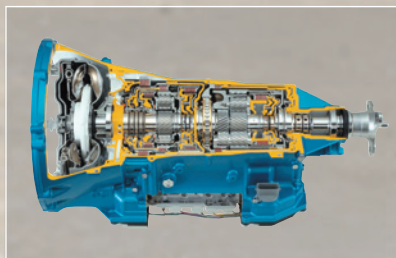
しかしながら、ガソリン車やディーゼル車も今後しばらくは続くものと考えられるため、その環境負荷を低減することも重要です。また、自動車による事故を予防し、交通安全を確保することも重要な課題です。私たちアイシンは、これからも自動車の環境・安全性能の向上に貢献する製品を提供し、クルマに乗る「うれしさ」を世界中に届けていきます。

に乗る「うれしさ」を届ける



▼ 従来のガソリン車の燃費向上

燃費向上に貢献するオイルポンプやトランスミッション、小型化・軽量化を追求したボディ関連製品やシャシー関連製品など、多彩な製品・システムを提供しています。



高容量FR8速
オートマチックトランスミッション
高出力エンジンとのマッチングにより、
卓越した走り、燃費の向上を同時に提供します。

▼ ハイブリッド車の燃費向上

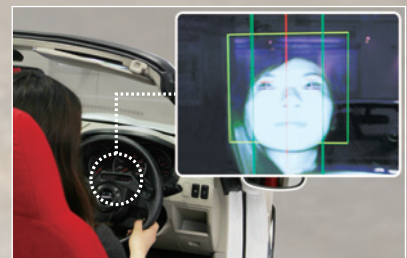
エンジン冷却用電動ウォーターポンプやハイブリッドトランスミッション、回生協調ブレーキシステムなど、ハイブリッド車に不可欠な製品・システムを提供しています。



エンジン冷却用電動ウォーターポンプ
エンジンの冷却を最適に近い状態にコントロール
することによって、燃費の向上に貢献します。

▼ 安全運転の支援

発進時から走行時、そして駐車時まで、クルマが使用されるさまざまな場面でドライバーと歩行者の安全確保を支援する製品・システムを提供しています。



わき見、居眠り判断技術の開発
センサーがドライバーの呼吸・心拍を常に監視。
その上で顔の動きをモニタリングすることで
高精度に居眠り運転を発見します。



中国に根付いた企業グループになる

世界最大の自動車生産国、中国で——

2009年、中国は世界最大の自動車生産国となりました。グローバルな自動車メーカーにとって、中国は重要な生産基地の一つとなっていました。近年の生産量増加は、中国国内の需要が伸びていることも大きな要因となっています。中国で自動車を購入していたのは、主に高所得層でしたが、今後は中間所得層の購入台数も大幅に増加するものと思われます。

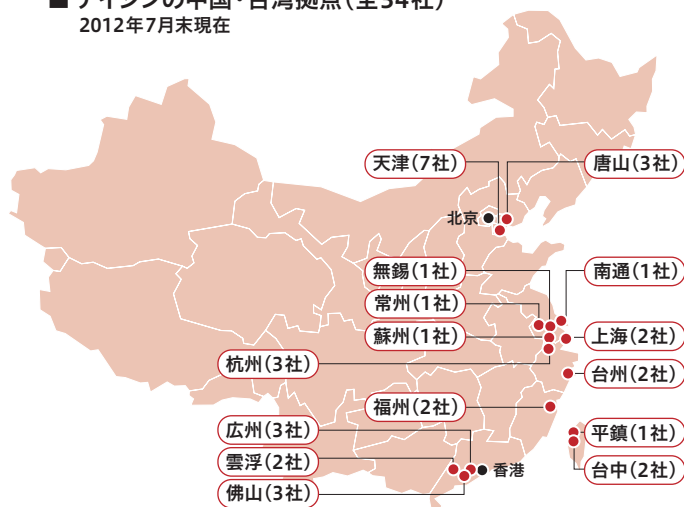
アイシンでは、こうした旺盛な自動車需要に沸く中国で、拠点設置を加速し事業の拡大を図るとともに、さまざまなCSR活動に積極的に取り組み、「中国に根付いた企業グループ」となることをめざしています。

事業の基盤強化を加速

アイシンは、1995年に初めて中国に生産拠点を設置しました。それ以降、中国の自動車産業の発展と歩みをともにし、次々と生産・販売拠点を増やしてきました。

この1年で、戦略策定と意思決定の迅速化を図るため、アイシン精機の中国事業を統括する「愛信精機(中国)投資有限公司」を設立。また、中国向けの自動車部品の設計、評価、技術動向の調査、現地の各生産拠点への

■ アイシンの中国・台湾拠点(全34社)
2012年7月末現在



技術サポートを担う「愛徳克斯(常州)管理有限公司」「愛信(南通)汽車技術中心有限公司」を相次いで設立しました。

その他にも、ブレーキ、オートマチックトランスミッション、電子部品などの生産拠点を新設し、中国での事業展開を加速しています。

また、展示会やモーターショーに出展し、自動車の環境・安全性能の向上につながる製品を積極的に紹介しています。今後もアイシンでは、これら製品の普及を図り、中国で「持続可能なクルマ社会づくり」に貢献していきます。

2011年 中国の自動車生産台数(出典:マークラインズ)

1,842万台

2011年に中国で生産された自動車は、世界全体の約4分の1を占める1,842万台。そのうち9割以上が中国国内で使用されていると言われています。快適性や利便性など自動車をもたらす良い影響も、そして環境負荷などの好ましくない影響も、最も大きく被っているのは中国であると言えます。クルマ社会のこれからを考えるにあたって、中国は最も重要な地域の一つです。



人を育てる——人材の現地化

またアイシンでは、ものづくりを支える人材の育成にも力を注いでいます。中国の各拠点では、現場の作業者を対象とした基本的な品質教育はもちろんのこと、現場の作業者と技術員室の中堅メンバーの教育も実施しています。また、将来ものづくりのリーダーとなって活躍できる人材を育てるために現地の若手従業員を研修生として、日本で1年間に渡りさまざまな実践的スキルを習得させる研修制度も設けています。

さらに、管理職をめざす現地人材についても「アイシンウェイ※」や「リーダーシップ」などを学ぶ研修を実施するなど、ものづくりのみならずマネジメントの現地化にも積極的に取り組んでいます。こうした活動の成果として、管理職や役員に占める現地人材の比率は、年々向上しています。

また、日本語を学びたいと考える従業員向けの語学サークルや、誕生日などの記念日を職場の仲間で一緒に祝うことも奨励し、共に生き生きと働ける職場環境づくりにも取り組んでいます。

※ アイシンウェイとは、アイシン流の仕事の「考え方」や「やり方」を、世界中の従業員で共有し、伝承・進化させていくために明文化したもの(2007年4月策定)。

事業活動にともなう 環境負荷を低減するために

世界的な課題である温暖化防止や資源保全はもちろんのこと、一部地域の水不足など中国特有の環境課題をまずはしっかりと認識することが重要であると考えています。そこでアイシンは、2009年度に「中国アイシン連結環境委員会」を設置しました。以降、同委員会が中心となって現地の環境課題の把握や各拠点で実施した環境対策の水平展開などに取り組んでいます。

2011年度には、各拠点の環境管理者やエネルギー管理の実務者向けの「省エネ基礎教育」を実施し、のべ190名が受講しました。今後、同研修の受講者が中心となって各拠点で製造現場の省エネ改善を推進していきます。

■「省エネ基礎教育」の概要

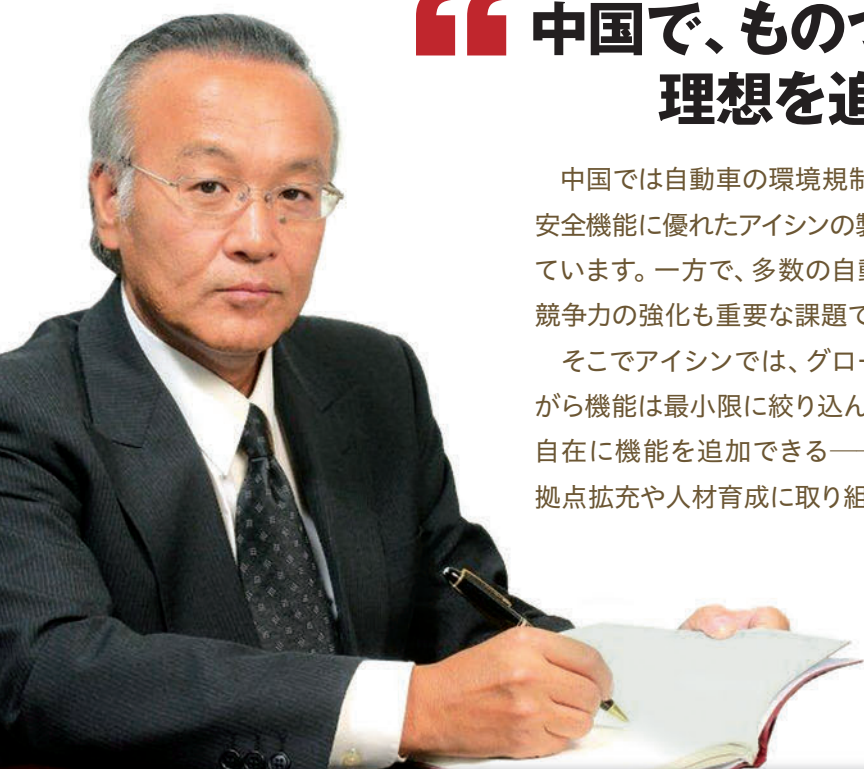
目的	自主改善活動の基盤となる省エネ知識の基礎を学び、エネルギーのムダを見つけ、有効なエネルギー活用を実施するための視点を養う
対象者	・環境管理に関わる管理責任者 ・エネルギー管理業務の実務者
カリキュラム	・省エネの基本ルールの理解(座学) ・製造現場における省エネ改善項目の抽出(現場確認を含むグループワーク)

中国で、ものづくりの理想を追求しています

中国では自動車の環境規制や安全規制の強化が進んでおり、環境・安全機能に優れたアイシンの製品は、今後ますます必要とされると考えています。一方で、多数の自動車メーカーが群雄割拠する中、コスト競争力の強化も重要な課題であると認識しています。

そこでアイシンでは、グローバルな品質基準をしっかりと満たしながら機能は最小限に絞り込んだ製品をベースに、顧客の要望に応じて自在に機能を追加できる——そんな理想的なものづくりを追求し、拠点拡充や人材育成に取り組んでいます。

愛信精机(中国)投資有限公司 総経理
矢木 伸介 (アイシン精機 専務役員)



地域社会の一員として 積極的に社会貢献活動を展開

中国で事業を営む企業にとっては、拠点を置く各地域で現地のニーズに応じた社会貢献活動に取り組むことも重要な使命の一つです。

アイシンでは、各拠点が地域社会のニーズに耳を傾け、積極的に社会貢献活動に取り組むことで現地コミュニ

ティの課題解決に協力しています。2011年度も植樹などの環境保全活動、教育機関や福祉施設への支援、災害被災地への寄付などさまざまな活動を実施しました。

これからもアイシンは、中国で継続的にCSR活動に取り組み、現地の人々から信頼され、期待される企業グループをめざします。



①② 小学校への慰問

【愛信精机(佛山)汽車零部件有限公司】
2012年3月3日、地元大学の学生とともに小学校で寸劇を披露しました。また、経済的に困窮している児童に対して支援金を寄付しました。

③④ 大学での講演

【唐山愛信齒輪有限責任公司】
2011年10月24日、地元の大学で日本語を専攻する学生向けに『企業と大学の間、交流の橋を作ろう!』と題した講演を実施しました。

⑤⑥ 老人ホームでの植樹活動

【豐愛(広州)汽車座椅部件有限公司】
同社では、4年前から毎年植樹活動を実施しています。2011年3月11日、地元の老人ホームの庭園にモクセイの木を植樹しました。

New
Products
2012

新アイドリングストップ協調ブレーキ制御モジュレーター

燃費向上につながる 「アイドリングストップ機能」に協調し 車両の安全性をしっかりと確保します

自動車の環境負荷低減と安全性確保は、持続可能な社会を実現するうえで避けて通れない重要な課題です。アイシンでは、温室効果ガス排出量の削減や石油資源の保全につながる「燃費向上」に貢献する技術や、ドライバーと歩行者の安全確保を支援する技術の開発・普及に取り組んでいます。

アドヴィックスでは、停止前アイドリングストップ機能に協調するブレーキ制御モジュレーターを新たに開発しました。この製品は、2011年に発売されたダイハツ工業(株)の軽乗用車「ミラe:S(イース)」、スズキ(株)の軽乗用車「アルト・エコ」などに搭載されています。

アイドリングストップ機能とは、停車時に自動でエンジンをストップさせ、発車時に自動で再始動させる機能です。新搭載の停止前アイドリングストップ機能は、車両が完全に停止する前からエンジンをストップさせることで、燃費のさらなる向上を図り、環境負荷を低減させるものです。

アドヴィックスが開発した新アイドリングストップ協調ブレーキ制御モジュレーターは、ESC(横滑り防止装置)

モジュレーターをベースに、新たなソフトウェアを追加したものです。各種センサーからの情報をもとに車両の挙動やエンジンの作動状態、ドライバーの操作を検知して、必要に応じてブレーキ油圧を自動で制御します。これにより、アイドリングストップ機能の作動状態から車両が停止するまでの安全性を確保します。

アイシンでは、今後もこうした環境・安全技術の開発・普及を推進し、持続可能な社会づくりに貢献していきます。



新アイドリングストップ協調
ブレーキ制御モジュレーター

ダイハツ工業(株)の軽乗用車
「ミラe:S(イース)」





エネファーム type S

New
Products
2012

家庭用固体酸化物形燃料電池コージェネレーションシステム

世界最高水準の発電効率“46.5%”を実現。 暮らしをもっと省エネにします

日本では、電力不足が深刻化する中、需要地で発電するため送電ロスが少ない「分散型エネルギーシステム」に期待が集まっています。

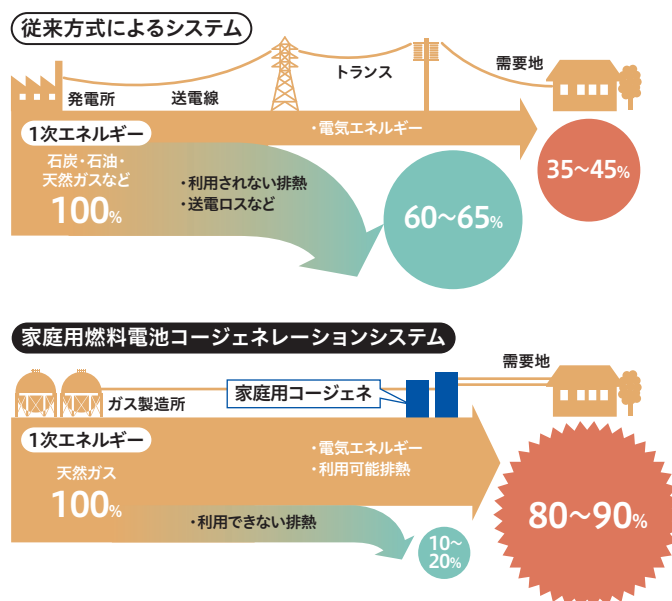
こうした中アイシン精機は、大阪ガス(株)、京セラ(株)、(株)長府製作所、トヨタ自動車(株)の5社で、2009年3月から取り組んできた家庭用固体酸化物形燃料電池※1コージェネレーションシステムの開発を完了し、大阪ガスより販売を開始しました。

同システムは大阪ガスのコージェネレーションシステム開発技術、京セラのセルスタック※2設計・製造技術、アイシン精機・トヨタ自動車の発電ユニット設計・製造技術、長府製作所の排熱利用給湯暖房ユニット設計・製造技術などの各社の強みを活かして共同で開発しました。電気を発生させるセルスタックの電解質にセラミックスを使用しており、作動温度が700～750度と高温になるため、この熱を都市ガスから水素への改質を促進するエネルギーとして有効に利用できます。その結果、家庭用燃料電池としては世界最高水準※3となる46.5%※4の発電効率を実現。総合エネルギー効率は90.0%となっています。また、ガス給湯暖房機を用いた

従来システム※5と比較すると、年間で、CO₂排出量を約1.9トン削減※6できます。

アイシンでは今後も環境・エネルギー関連製品の開発に積極的に取り組み、分散型エネルギーシステムの普及に貢献していきます。

■ エネルギー効率の比較



※1 電解質にセラミックスを用いた燃料電池。酸素がイオン化し酸素イオンとなって電解質を通過することで水素や一酸化炭素と化学反応し電気を発生。一酸化炭素も利用できる点が大きな特徴。
※2 セルとは燃料極、電解質、空気極からなる単一の電池(発電体)。スタックとはセルの集合体。単一のセルは起電力が1V以下、出力も数W程度であるため直列に接続してスタックとし、電圧や出力を高める。
※3 家庭用燃料電池コージェネレーションシステムにおいて(2012年3月13日現在、大阪ガス(株)調べ) / ※4 低位発熱量基準(Lower Heating Value)。燃料ガスを完全燃焼させたときに生成する水蒸気の凝縮潜熱を発熱量に含めない熱量。 / ※5 試算条件については、当社リリースをご参照ください。 <http://www.aisin.co.jp/news/d00534.html> / ※6 大阪ガス(株)の試算による。

環境活動

第5次アイシン連結環境取り組みプラン

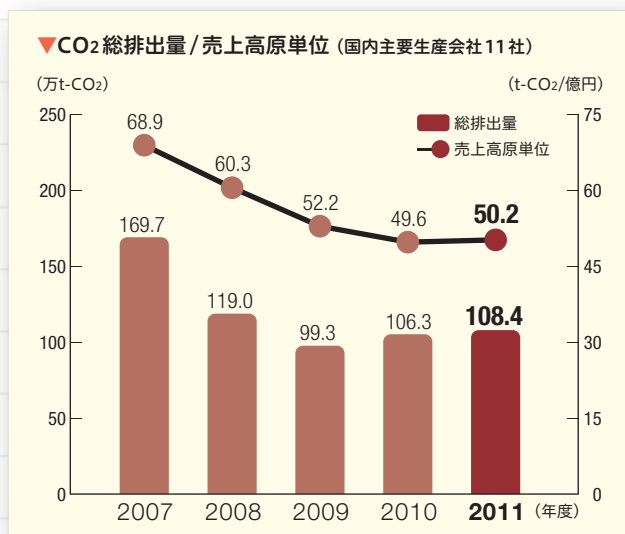
人類と地球環境が共存する持続可能な社会の実現に向けて

アイシンは2011年4月、人類と地球環境が共存する持続可能な社会の実現に向けて、2011年度から2015年度までの計画として「第5次アイシン連結環境取り組みプラン」を策定しました。

「低炭素社会の構築」「循環型社会の構築」「自然共生社会の構築」に、「全テーマ共通の基盤活動」を加えた4つの環境軸において重点取り組み項目と具体的な実施事項・目標を策定し、総合的なマネジメントを推進しています。



低炭素社会の構築



生産による温室効果ガスの削減

アイシンでは、売上高1億円当り原単位でのCO₂排出量を2015年度までに2007年度比で12%削減することをめざしています。

2011年度は、機械加工ラインやアルミ溶解炉、熱処理炉などのエアークリーン対策、設備非稼働時停止の徹底など、省エネと節電を推進しました。2011年度は総排出量が前年度よりも増加の状態となりましたが、さらなる省エネアイテムを抽出し、削減に取り組みます。

▼CO₂以外の温室効果ガスの排出 (国内主要生産会社11社) (t-CO₂)

(年度)	2007	2008	2009	2010	2011
HFCs※1	1,580	425	231	109	104
SF ₆ ※2	326,235	76,480	3,585	8,365	12,906

※1 HFCs:ハイドロフルオロカーボン ※2 SF₆:六ふっ化硫黄



◀ガスエンジン
コージェネレーションシステム
COREMO(コレモ)

▼生産工程における
冷暖同時ヒートポンプシステム



製品を通じた省エネへの貢献

アイシン精機は北海道ガス(株)と共同開発したガスマイホーム発電システム「エコジョーズ+COREMO(コレモ)」など、暮らしや産業の省エネ化・CO₂排出量削減に貢献する製品の開発にも積極的に取り組んでいます。

2011年度には、アイシン・エイ・ダブリュがゼネラルヒートポンプ工業(株)、中部電力(株)と共同推進した「生産工程における冷暖同時ヒートポンプシステム」の開発・導入が、その高い省エネ性能を評価され、経済産業省「資源エネルギー庁長官賞」を受賞しました。

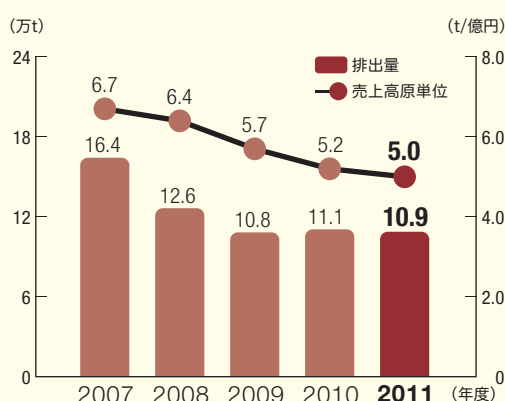
循環型社会の構築

アイシンでは、売上高1億円当り原単位の廃棄物排出量を2015年度までに2007年度比で17%削減することをめざしています。

電子マニフェストシステムの導入が完了

廃棄物の取り扱いにおいて順法性を確保するための管理を徹底するとともに、排出量の削減に取り組んでいます。2012年度上期には、廃棄物処理の流れを明確にし、不法投棄、マニフェスト運用違反、無許可業者への委託、契約書作成義務違反などの違法リスク撲滅のために進めてきた電子マニフェストシステムの導入が全対象拠点39拠点で完了しました。これらの取り組みによって2011年度の売上高1億円当り原単位の排出量は、前年度から0.2t/億円減の5.0t/億円となりました。

▼廃棄物排出量 / 売上高原単位 (国内主要生産会社11社)



▼電子マニフェストのメリット



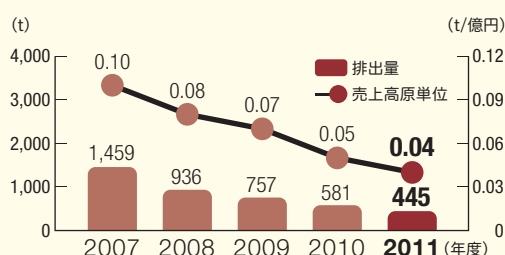
自然共生社会の構築

VOC排出量の削減

車体部品の塗装や電子部品のコーティングに使用される溶剤などに含まれるVOC※は、大気を汚染する可能性があります。アイシンでは、2015年度までに売上高1億円当り原単位での排出量を2007年度比で31%削減することを目標とした活動をはじめ、現在は目標達成した中でさらなる排出量削減に取り組んでいます。

※ VOC (Volatile Organic Compounds) : 揮発性有機化合物。常温常圧で空气中に容易に揮発する物質の総称で、主に人工合成されたものを指す。トルエンやキシレンはVOCの代表的な物質で、他にも100種類以上の物質がある。

▼VOC排出量 / 売上高原単位 (国内主要生産会社11社)



土壌汚染防止対策を推進

アイシンでは、万一配管が破損した場合でも有害物質などが漏れいし土壌を汚染することがないように、埋設配管の改善を進めています。2015年度までに、グループの国内外の拠点33箇所に対策を講じる予定です。2011年度時点で、すでに19箇所の対策が完了しています。



配管の下部・周囲をコンクリートで囲み、ピット化

注) 国内主要生産会社11社: アイシン精機、アイシン高丘、アイシン化工、アイシン・エイ・ダブリュ、アイシン軽金属、アイシン機工、アイシン・エーアイ、アイシン辰栄、アイシン・エイ・ダブリュ工業、豊生ブレーキ工業、アドヴィックス

グローバルCSRトピックス

企業市民活動



【Siam Aisin Co., Ltd.】

タイ洪水の被災地へ支援物資を提供

2011年度、タイで大規模な洪水が発生しました。幸いにも直接的な被災を免れたSiam Aisin Co., Ltd.では、福利厚生委員会の会長が中心となり、被災地が一日でも早く元の生活に戻るよう、「思いやり寄付プロジェクト」に取り組みました。

社員食堂で水やインスタント食品、ティッシュペーパーなどの支援物資を従業員から集め、Siam Aisin Co., Ltd.のトラックで洪水被災地に設置された物資配付所へ届けました。



【アイシン・エイ・ダブリュ】

「東北に想いを!『せっけんプロジェクト3.11』」を開催

アイシン・エイ・ダブリュは、愛知県安城市の公園を会場に、「東北に想いを!『せっけんプロジェクト3.11』」を開催しました。

当企画は、2011年3月11日に発生した東日本大震災から1年経った現在も、不自由さの残る被災地の皆様に、グループ社員やその家族一人ひとりの“応援のキモチ”を届けたいという想いから生まれた活動です。

約300人の参加者が、さまざまなかたちの「手作り石鹸」をつくり、制作した石鹸と同数の新しい石鹸を、応援メッセージを記したカードと共に岩手県山田町の共同浴場「御蔵の湯」に贈呈しました。



自然災害に備えた取り組み



【アイシン化工】

全従業員参加の防災訓練

マグニチュード8規模が予想される東海地震の発生が現実味を帯びる中、アイシン化工では2006年度から毎年、地元愛知県豊田市の消防署と合同で防災訓練を実施しています。災害時に的確な消火・避難誘導ができるよう、消防士の方々と同社工場の連携方法などを実地で体験し、確認しています。

また、工場からの救出・救命訓練や排煙訓練には、アイシン化工の全従業員が参加しています。



【愛信精机(佛山)車身零部件有限公司】

地元消防隊との合同防災訓練

2011年度、愛信精机(佛山)車身零部件有限公司は、従業員の防災意識向上と事故の未然防止を目的として、地元の佛山消防隊と合同で全社防災訓練を実施しました。

消防隊の指導のもと、従業員も消火・救助訓練に参加しました。また、火災を想定した消防車からの放水訓練も行いました。

人材育成



【Aisin Mfg. Illinois, LLC】

Aisin Universityの開講

Aisin Mfg. Illinois, LLCでは、人材育成の一環として、Aisin University(従業員教育講座)を開講しています。今年は合計109名が受講し、全員が修了しました。

Aisin Universityには、3つ(基本・班長・職長)のクラスがあります。それぞれのクラスに8~12の科目を設定し、全科目を履修することで修了できます。今後も継続して実施し、日常業務に生かしていく予定です。



【アイシン高丘】

海外事業体に研修生を派遣する「海外トレーニー制度」



アイシン高丘では、生産の海外シフトが進み、海外事業展開が活発化しています。そこで、駐在員の質を高めるための「海外トレーニー(研修生)制度」を導入しました。この制度は、若手に1年程度、海外勤務を経験させ、将来の駐在員候補を育成するのがねらいです。

2011年12月に第一陣を米国INTAT社に派遣し、研修を開始しました。今後も定期的に各機能部署からトレーニーを派遣していく予定です。

アイシングループ (170社 20ヵ国)

2012年3月31日現在

売 上 高 2兆3,041億円

従 業 員 数 78,212人

事 業 内 容 自動車部品の製造・販売など

主要会社名

アイシン精機株式会社

アイシン高丘株式会社

アイシン化工株式会社

アイシン・エイ・ダブリュ株式会社

アイシン軽金属株式会社

アイシン開発株式会社

アイシン機工株式会社

アイシン・エーアイ株式会社

アイシン辰栄株式会社

アイシン・エイ・ダブリュ工業株式会社

豊生ブレーキ工業株式会社

株式会社アドヴィックス

制作：アイシン精機 広報部

WEBサイトについて

アイシンでは、ステークホルダーの皆様に当企業グループの事業活動とCSR活動に関する情報を開示し、積極的にコミュニケーションを図るために、Webサイトにおいて詳細な活動、パフォーマンスデータを報告しています。